

## “超”を目指す軸受技術研究会報告

**“超”を目指す軸受技術研究会**（第3種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っていろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数34名，平均出席者数は25名程度で，同志社大学を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第28回研究会（平成21年6月20日 於：同志社大学）①自動車エンジンベアリングにおける固体潤滑オーバーレイの適用（大豊工業 富川貴志），②堅軸型用スラスト軸受パッド間隔の流れ学概論（放送大 松尾昌憲），③すべり軸受材料のなじみ特性に及ぼす DLC の効果（宇部高専 後藤 実，西島製作所 野々垣 稔）．

第29回研究会（平成21年10月3日 於：同志社大学）①4メガrpm級慣性気体軸受（日本電子 遠藤由宇生，樋岡克哉，東京農工大 山内一夫），②小型・高速回転流体潤滑軸受（東京理科大 宮武正明，吉本成香，大津雄太，佐藤真樹，角田 亘），③バンプフォイル型の動圧気体ジャーナル軸受のモデルと数値予想性能（九州工大 畠中清史，斉藤 勲，木村正太，山口陽平，生島大喜，道田大樹）．

第30回研究会（平成21年12月19日 於：同志社大学）①レーザー加工による周期構造を利用したメカニカルシールしゅう動面へのキャビテーションリング形成とその効果（イーグル工業 徳永雄一郎，井上秀行），②小型流体軸受における軸受端テーパシールからの油漏れに関する基礎研究（スピンドルデバイス研究所 菱田典明，同志社大 平山朋子，松岡 敬，元 京都大 矢部 寛），③高速回転機械用動圧フォイル軸受の開発（大阪産業大 林 和宏，平佐多敬二）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3～4回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>